

Interview

DAITO 代表取締役 井上 滋樹 氏



事業活動の中で必ず発生する廃棄物——。クリーン焼却システムメーカーのDAITO(愛知県瀬戸市)は小型焼却炉によるオンラインサイト処理を提案する。井上滋樹社長に、最近の受注状況と製品展開の考え方について話を聞いた。

——今年1月にDAITO販売から社名を変更しました。自治体への設置届出が不要な小型焼却炉。工場や事務所で発生した廃棄物を1時間あたり50キログラム未満燃やせる小型炉のことです。事業メーカーの数が少ないニッチな業界ではあります。当社の主力製品は、東日本大

コスト削減、機密保持目的に導入増加

震災の復興に向けて当社製品

の引き合いも増えています。

そのような中で、一層の飛躍

と業界でのシェアアップを目

指し、このたび社名を「DA

ITO株式会社」としました

——焼却炉を持つメリット

は。

「近年引き合いが増えてい

るのは、黒煙が出やすいプラ

インアップを取り揃えてい

ます。

新型の扉を採用しています。そこで万が一、行政から指導があつた場合、当社が責任を負う「構造基準適合保証」付の製品とす

ることで、安心してご使用い

ただけるようにしました」

——二~三の多様化が進ん

——場所によっては、焼却

もありますが、値段で判断

されるケースが多く、「こん

なはずでは……」と思われるこ

とも正直あります。そこで当

社は焼却炉展示場への持ち込

みによる燃焼テストを積極的

に行なうことや、全国各地での

展示実演会への出展などを通

じて、最適な炉を提案できる

ながら、消煙と塵の飛散を従

うに取り組みを進めています

問題を解決するために、燃

やすもの性質や量に応じた

——プラスチック、木材、

ターネット経由で売れる場合

書類、ペットボトルなど、燃

料を大幅にカットするため

——二~三の多様化が進ん

でいます。

「我々は燃やす以外の要素

も取り入れています。排出

来品と同等レベルに抑えたの

も特長です。本体と投入扉

のすきまから出る未燃焼ガ

スを水の加熱に活かしたりし

ています。炉自体が小さい

ので、導入事例は限られま

すが……。焼却炉自体、直

接利益を生む設備ではない

ため、購入の優先順位も後

ろになります。しかし、

現場で処理することによつ

て、廃棄物の保管スペース

や処理コストが減り、機密

情報を守ることができます。

製品の機能面も含めて「安

心・安全」を伝えていけれ

ばと考えています」

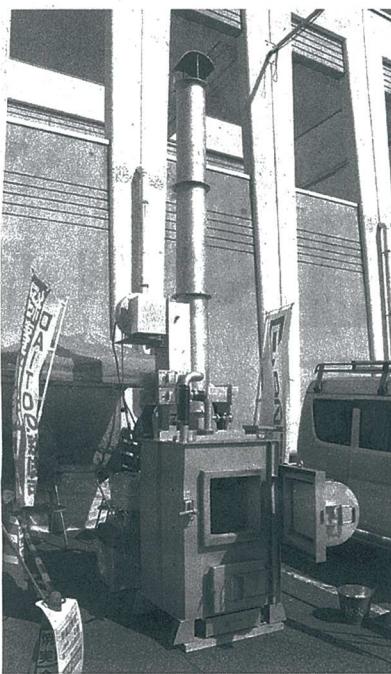
質と量に応じた焼却炉選定

——新会社として発足した2010年以降、おかげさまで増収増益を毎年続けています。当社の主力製品は、東日本大

導入で処理コストを抑えることができ

ます

——近年は機密保持を目的に導入するケースも増えてきました。委託業者が不法的な処理をした場合は排出した側も責任を問われますし、お客様の情報が外部に漏れれば企業の屋台骨を揺るがす事態になりかねないからです



今年3月に発売した廃プラスチック用新型モデル「SP II」(写真=広島どてらい市)

やすものに合わせて焼却炉のラインアップを取り揃えています。この新型モデルは焼却炉の構造に関する法規制に適合しています。そこで万が一、行政から指導があつた場合、当社が責任を負う「構造基準適合保証」付の製品とすることで、安心してご使用いただけるようにしました」

——二~三の多様化が進んでいます。

「我々は燃やす以外の要素も取り入れています。排出されたエアーを温風に活用したり、燃焼の熱エネルギーを水の加熱に活かしたりしています。炉自体が小さいので、導入事例は限られますが……。焼却炉自体、直接利益を生む設備ではないため、購入の優先順位も後ろになります。しかし、現場で処理することによつて、廃棄物の保管スペースや処理コストが減り、機密情報を守ることができます。製品の機能面も含めて「安心・安全」を伝えていければと考えています」